

景気景況調査報告

(第28回)

令和4年	10～12月期	実績
令和5年	1～3月期	見通し

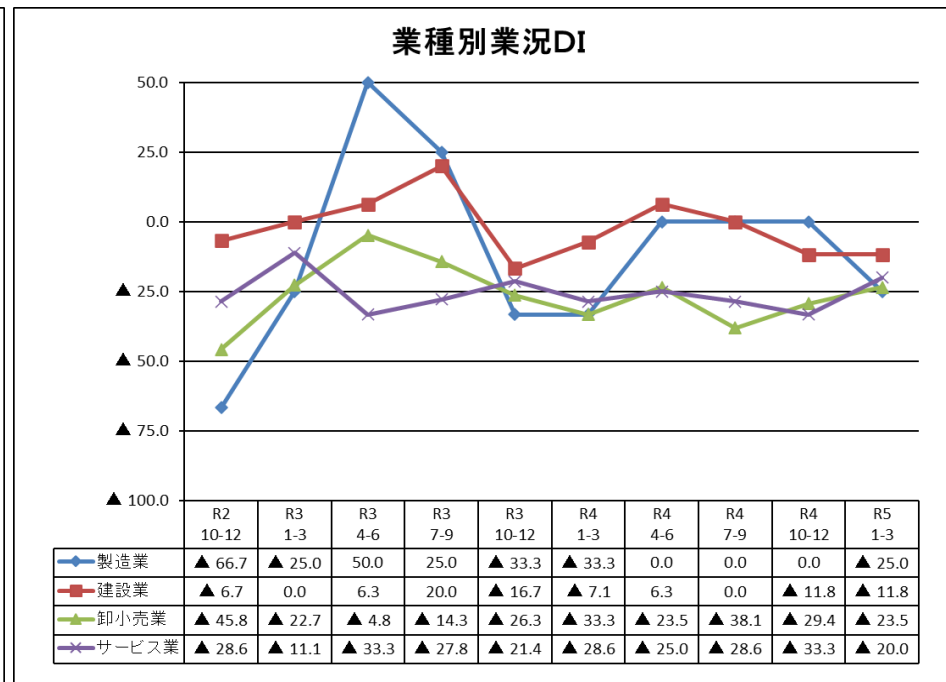
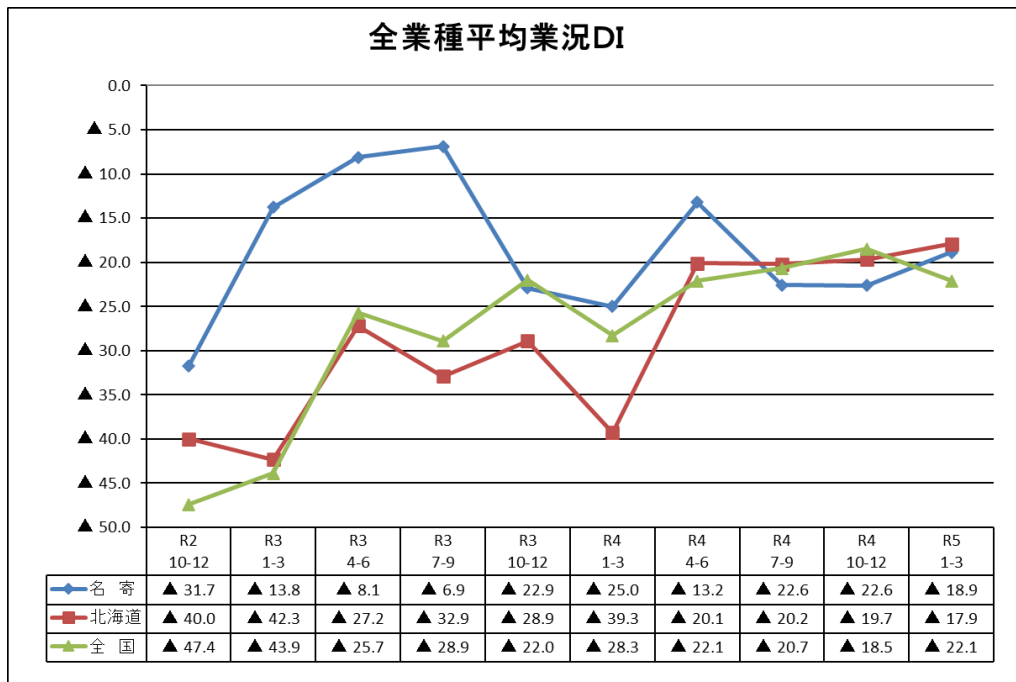
令和5年2月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和4年10～12月期の実績及び令和5年1～3月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 119社

II 調査結果

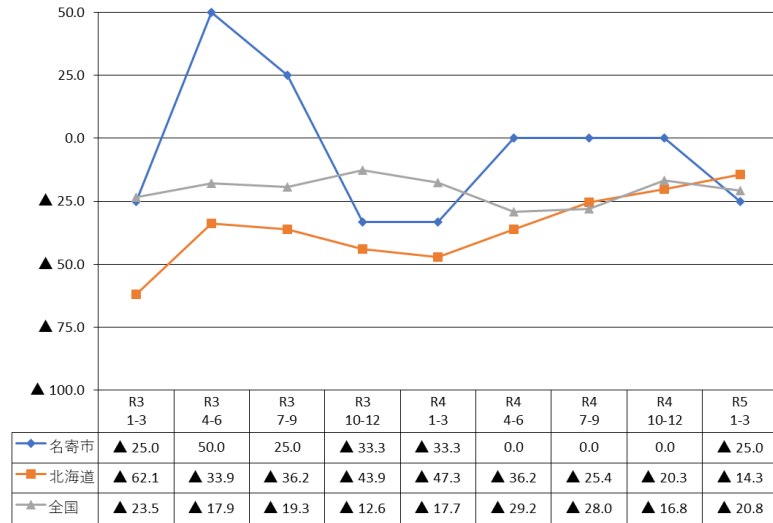


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

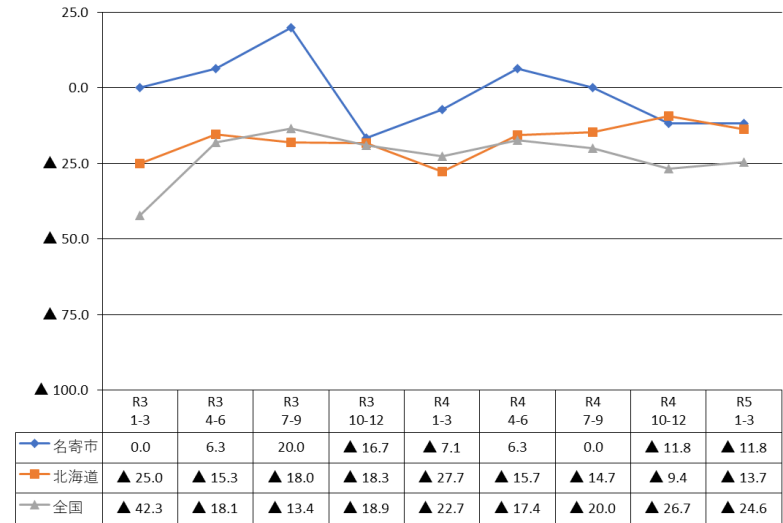
- ・今期、全業種平均で▲22.6ポイントと前回調査と同じ値となっている。
- ・見通しでは今期と比べ3.7ポイント好転となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気を比較すると、今期2.9ポイント悪化となり、見通しではマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気を比較すると、今期4.1ポイント悪化となり、見通しでは逆転し、3.2ポイント好転の見込みとなっている。
- ・電気や燃料などのエネルギー代が軒並み高騰しているため、今後業況悪化が見込まれる。

業種別業況DI

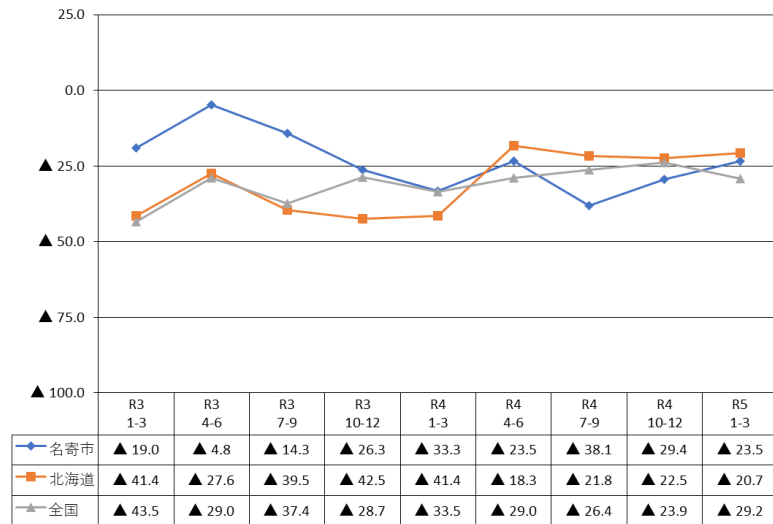
製造業 業況DI



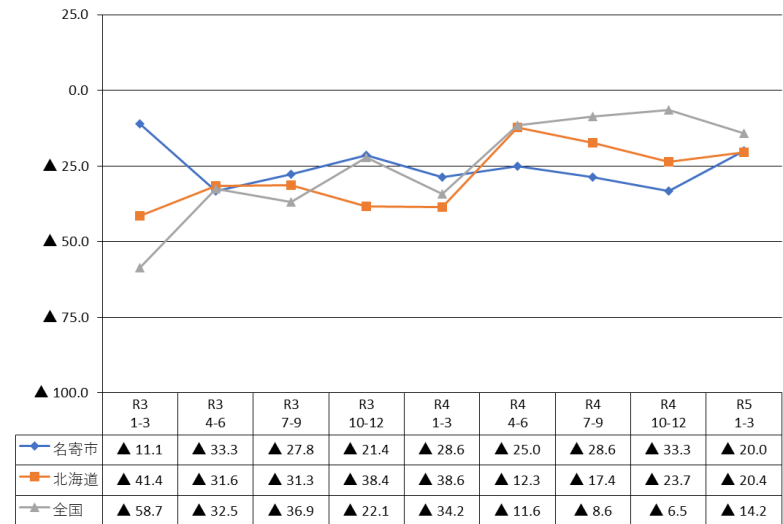
建設業 業況DI



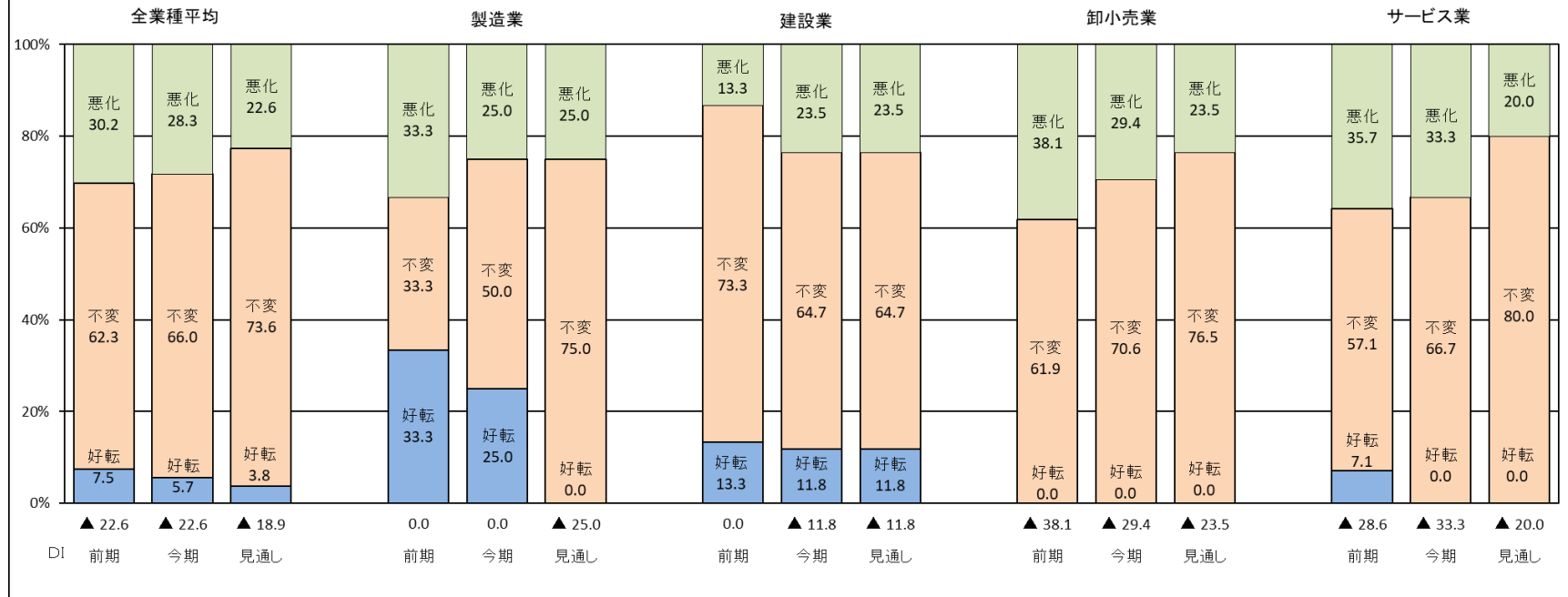
卸小売業 業況DI



サービス業 業況DI



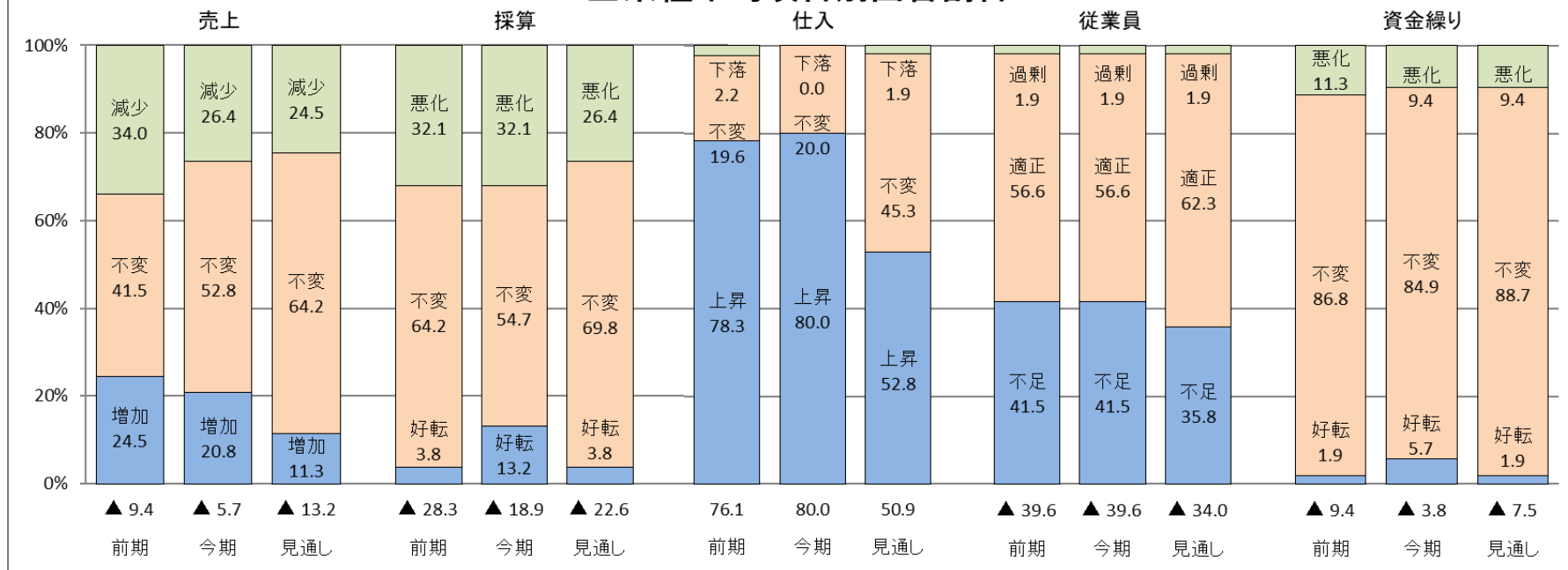
業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期、好転・悪化の回答はあったが、見通しでは不変・悪化のみとなっている。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が10.2%増加しており、「好転」は1.5%減少している。見通しは変更なし。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が8.7%減少しており、「好転」の回答はない。
見通しでは「悪化」がさらに5.9%減少し、「好転」の回答はない。
要因として、コロナウイルスやウクライナ情勢、原油価格高騰等がみられる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が2.4%減少しており、「好転」の回答はない。
見通しでは「悪化」がさらに13.3%減少し、「好転」の変動はない。
全体的に人口減少・仕入運賃増加・ウクライナ情勢による影響・お客様の減少・若年層不足・求人難
仕入単価増加・原油価格高騰・原材料価格高騰・コロナの見通し不透明等々の要因が挙げられている。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI [減少の要因]

今期▲5.7ポイントと前期より3.7ポイント増加となっている。見通しでは7.5ポイント減少となっている。
・資材の値上げ ・消費者の買い控え ・物価高 ・物流の遅延 ・メイン客層の高齢化 ・客単価減

採算 DI [悪化の要因]

今期▲18.9ポイントと前期より9.4ポイント増加となっている。見通しでは3.7ポイント減少となっている。
・資材高騰 ・利益率の悪化 ・メーカーの大幅値上げ ・原油価格の高騰

仕入 DI [上昇の要因]

今期80.0ポイントと前期より3.9ポイント増加となっている。見通しでは29.1ポイント減少となっている。
・ウクライナ情勢の影響 ・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇

従業員 DI [不足の要因]

今期▲39.6ポイントと前期より変更はない。見通しでは5.6ポイント増加となっている。
・高齢化 ・人口減少 ・若年層の不足 ・求人難 ・退職者増 ・仕事量の減少 ・職人不足

資金繰り DI [悪化の原因]

今期▲3.8ポイントと前期より5.6ポイント増加となっている。見通しでは3.7ポイント減少となっている。
・新型コロナウイルスの影響 ・先行不透明 ・コロナ融資利子開始